

水稻新品種「たきたて」の栽培法の目安

古川農業試験場

1 取り上げた理由

平成13年に本県の奨励品種として採用した中生の低アミロース品種「たきたて」（普及技術第76号）の施肥法及び栽植密度等について、目安が得られたので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 基肥は「ひとめぼれ」と同程度（窒素成分量で10a当たり5kg程度）とする（図1）。
- 2) 追肥は，10a当たり窒素成分量で幼穂形成期に2kg程度を1回，または幼穂形成期，減数分裂期に各1kgずつ2回施用とする（図1）。
- 3) 栽植密度はm²当たり22株程度とする（図1）。
- 4) 登熟期間が高温で経過するとアミロース含有率が大幅に低下するので，高温登熟となりやすい早期田植を避け，田植適期の範囲内で晩期栽培を行う（図2）。

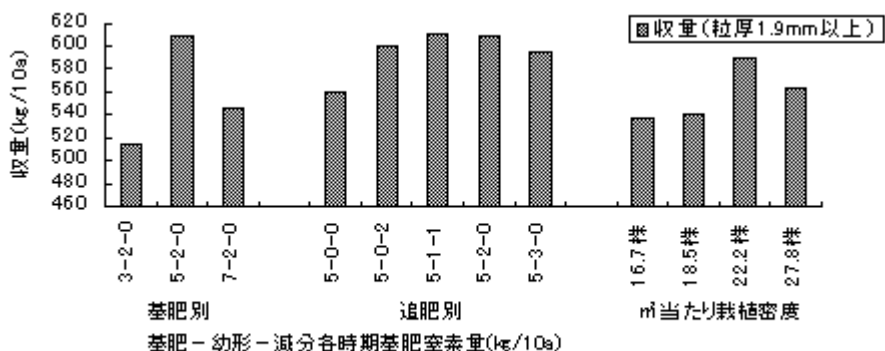


図1 施肥法、栽植密度と収量
(試験年次:2001年 移植日:5月21日 出穂期:8月11~14日)

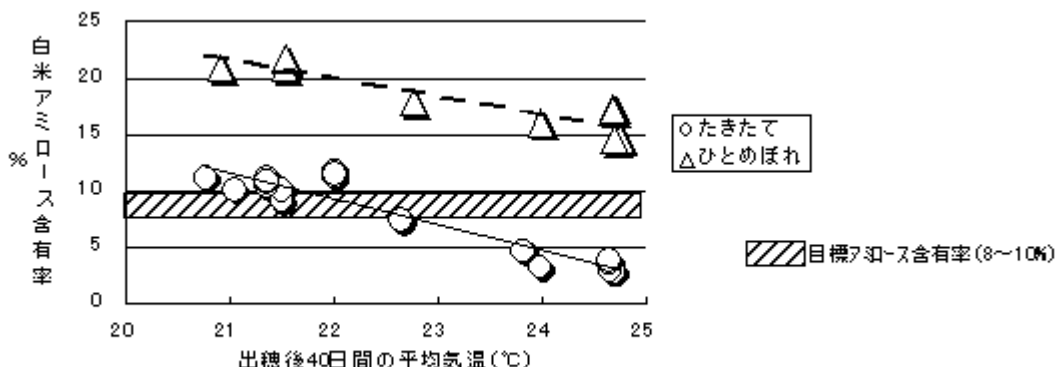


図2 登熟期間の平均気温とアミロース含有率
(1997-2001年 農業センター・古川農試)

3 利活用の留意点

- 1) 籾の比重はもち種に近いので，種子の比重選はもち種と同じ比重1.08で行う（図3）。

（問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話 0229-26-5106）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

新品種栽培法の早期確立

平成12～13年

2) 参考データ

- a m^2 当たり穂数及び m^2 当たり籾数は基肥窒素量が多いほど多くなった。基肥 3 kg/10a区, 7 kg/10a区は登熟歩合・千粒重が低く, 収量・品質とも基肥 5 kg/10a区を下回った。(表1)。
- b 1穂籾数及び m^2 当たり籾数は幼穂形成期の窒素施用量に応じて多くなった。精玄米重は幼穂形成期, 減数分裂期各 1 kg/10aの区, さらに幼穂形成期 2 kg/10aの区で多かった(表1)。
- c m^2 当たり穂数は密植ほど多くなったが, 1穂籾数は疎植の方が多くなる傾向がみられた。 m^2 当たり籾数は22.2株区が最も少なかったが, 登熟歩合が高く, 最も多収となった(表2)。

表1 施肥試験における収量及び品質 平成13年 5月21日植

区名*1	穂数 (本/)	1穂 籾数 (粒)	当 籾数 (千粒)	粒厚1.9mm以上			千粒重 (g)	外観 品質*2	アミロス 含有率*3 (%)
				精玄米重 (kg/a)	屑米重 (kg/a)	登熟歩合 (%)			
3-2-0	432	67.9	29.4	51.4	7.0	73.4	23.9	中中	11.1
5-0-0	448	60.4	27.1	55.9	3.7	86.1	24.0	中中	10.9
5-0-2	461	61.2	28.2	59.9	3.3	87.3	24.4	中上	10.8
5-1-1	453	63.1	28.6	61.0	3.6	87.1	24.5	中上	11.1
5-2-0	465	65.2	30.4	60.8	4.6	81.3	24.6	中上	10.5
5-3-0	460	66.5	30.6	59.5	4.2	79.5	24.5	中中	10.3
7-2-0	486	69.7	33.9	54.7	6.7	67.5	23.9	中中	11.1

1)基肥 - 幼形 - 減分の各時期施肥窒素量(/10a)。

2)外観品質は上上～下下の9段階評価。

3)アミロス含有率はオートアナライザーI型で白米粉(搗精歩合90.5%)を測定した。

表2 栽植密度試験における収量及び品質 平成13年 5月21日植

区名*1	穂数 (本/)	1穂 籾数 (粒)	当 籾数 (千粒)	粒厚1.9mm以上			千粒重 (g)	外観 品質*2	アミロス 含有率*3 (%)
				精玄米重 (kg/a)	屑米重 (kg/a)	登熟歩合 (%)			
16.7株	444	73.3	32.5	53.8	6.1	69.1	23.9	中中	11.7
18.5株	458	73.6	33.7	54.1	7.3	66.4	24.1	中中	11.4
22.2株	482	64.1	30.9	58.9	5.0	78.5	24.3	中上	10.7
27.8株	545	61.6	33.5	56.3	6.4	69.8	24.1	中中	10.7

1) 当たり株数。株間を上から20,18,15,12 として設定。

2,3表1に同じ。

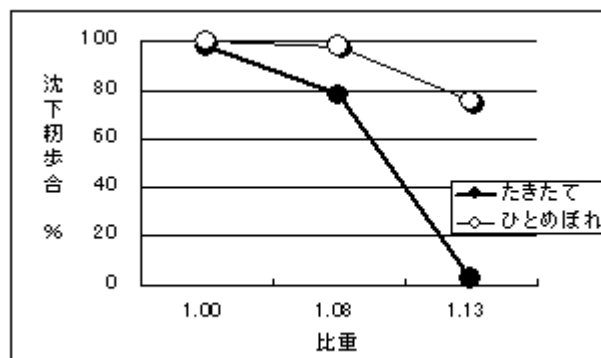


図3 比重選による沈下割合(2000年, 農業センター)

3) 発表論文等 なし